

特定非営利活動法人  
気象キャスターネットワーク

活動報告書

2017年



2018年 2月 17日

## 学校出前授業

気象や環境、防災などに関する様々なテーマの出前授業を全国各地の小学校、中学校、幼稚園などで実施しています。ワークショップや天気の実験、クイズなどを織り交ぜ、楽しみながら学べる授業です。

2017年は、企業様、団体様のご協力をいただきながら、小学校、中学校、幼稚園で一年間に合わせて185回の出前授業を行いました。

活動名	2017年実施数	実施地域
地球温暖化防止コミュニケーターによる 小学校・中学校環境出前授業 (環境省 委託)	124回 (2017年度120回)	全国各地
「なるほど！お天気実験教室 ～フロンを知って 地球を守ろう～」 (ダイキン工業株式会社 協賛)	20回 (2017年度16回)	東京・神奈川 大阪・千葉
防災出前授業「空の教室」 (河川整備基金 助成事業)	14回 (2017年度12回)	全国各地
台東区学びのキャンパスプランニング (台東区 委託)	9回 (2017年度7回)	東京台東区
自主事業による出前授業(減災プロジェクト)	18回 (2017年度18回)	全国各地
合計	185回 (2017年度173回)	

### 地球温暖化防止コミュニケーターによる 親子向けイベントと学校環境出前授業

気候変動に関する政府間パネル「IPCC」の内容を一般の国民に伝えていく「地球温暖化防止コミュニケーター事業」。2013年度から始まった事業も全国各地に広がりつつあります。その中で気象キャスターネットワークでは気象の専門性を活かしながら、多くの気象キャスター・気象予報士が地球温暖化防止コミュニケーターとして活動をしています。



2017年は親子向けイベントを東京・札幌・広島・大阪・名古屋の5か所で開催しました。それぞれの地域で活躍している気象キャスター・気象予報士が集結し、イベントを盛り上げ、各会場ともにたくさんの親子で賑わいました。



イベントでは大きな風船を膨らませ排出している二酸化炭素の量を実感してもらい、自分たちの暮らしを振り返ってもらいました。7つの風船が天井まで飛び跳ね大いに盛り上がりました。その他様々なアプローチで地球温暖化の仕組みや身

近な影響などを親子で楽しく学びました。



また、みんなでクールチョイスクイズでは、ソラちゃん・くまっくんのファイルで回答し、二酸化炭素を出さない賢い選択について学びました。最後に、これから自分が取り組むことを書いて、今年から登場した大きなツリーのボードに貼り付け、エコな取り組みの葉っぱがでいっぱいになりました。



5月からは小学校の環境出前授業が、10月から中学校もスタートしました。北海道から沖縄まで全国120の小中学校で実施、各地の気象キャスター・気象予報士が講師として、地球温暖化の最新情報を子ども達に教えています。小学校の授業の特徴の一つは、ワークショップ「生活ボックスでみんなの生活を振り返ってみよう」。サイコロ状の箱に描かれた私たちの生活の色々な場面イラストを見て、どんなところに、どの時間帯にエネルギーを使っているかを考えるワークショップです。今年度から新しいイラストも登場。「かわい

い！」と子供たちにも好評でした。



中学校の授業は2コマの授業。前半では地球温暖化の現状や影響、予測について、実験を交えながら正しく理解を深めてもらいます。後半は、自分の未来の人生や生活をイメージしてもらい、自分の年表を作ります。その上で未来の環境や自分を取り巻く状況を想像し、グループで話し合います。自分たちが地球温暖化に向けてできること(緩和策や適応策)をアイデアシートに書いてもらいました。新技術の発明も続出し、ユニークなアイデアが次々発表されました。



地球温暖化問題は待ったなしの先送りできない問題です。気象キャスターネットワークでは今後も、地球温暖化防止コミュニケーターとして、そして地球温暖化をはじめとした環境問題のメッセンジャーとして、様々な知識普及活動を行っていききたいと思います。

## 「なるほど！お天気・環境実験教室 ～フロンを知って 地球を守ろう！～」 (ダイキン工業株式会社 協賛)

「なるほど！お天気・環境実験教室 ～フロンを知って 地球を守ろう！～」(ダイキン工業株式会社協賛)は、2011年度から始まり今年度で7年目。今年は20回実施しました。

1928年発明されたフロンはエアコンや冷蔵庫などに使用され、生活が大変便利になりました。しかしフロンが空気中にもれ出ると地球温暖化に大きな影響を及ぼします。フロンの回収促進などの対策は最重要課題の一つですが、一般にはあまり知られていません。子ども達に正確な情報を知ってもらい、家族ぐるみの行動となり家庭でのフロンの適切な管理、回収の促進につながる事が目的です。

1時限目は、雲が発生し雨が降るまでの水循環のしくみ、水資源の大切さなど、実験を交えながらお話しします。

雲づくり実験は入道雲も作り、大人気です。



2時限目は、グループ実験や、地球温暖化などフロンの環境問題を学びます。



学校のエアコンの室外機を観察して、フロンの使用量を調べ、温暖化への影響(二酸化炭素換算量)を計算したり、エアコンを解体してフロンが空気を暖めたり冷やしたりするしくみを学びます。



授業をきっかけに、子ども達が地球の環境を守る大切さを感じたり、勉強が楽しくなって、将来気象や環境、または省エネ技術を研究する科学者が誕生すればうれしいです。

## 自主防災プロジェクト 9月1日防災の日 調布市の保育園

9月1日は「防災の日」。調布市にある市立上石原保育園でお天気防災教室を行いました。

今回は博士とサイぼうくんの妹のサイぼうちゃんと一緒に、3歳～5歳児の約60名の園児の皆さんが「地震や津波から身を守る」方法を勉強してくれました。



地震がきたら、津波や火事が起こったらどんなポーズをすればよいのかな？みんなしっかりとポーズを覚えてくれて、すぐにカメさんやチーターさんになることができました。



途中、地震がきてサイぼうちゃんがブロックの下敷きに…ドキッとする場面も

ありましたが(ブロックは偽物なので大丈夫です！)地震はいつどこで起こるかわかりません。



いざというときに、今回の教室のことを思い出してくれたら嬉しいです。

## 台東区 学びのキャンパスプランニング

台東区教育委員会が主催する「台東区学びのキャンパスプランニング」を通じて、台東区内の保育園(4園)・小学校(5校)で、気象・環境・防災教育を実施しました。保育園では、身近な天気のことや熱中症、気象災害について、防災キャラクターの「サイぼうくん」と博士と一緒にクイズや紙芝居、歌を交え、体を動かしながら遊んで学べる教室を行いました。



小学校では「空の教室」「自然エネルギーの教室」「暑すぎる東京のふしぎ発見」の3テーマの中から1つを選んでいただき、授業を行いました。簡単な実験や観測も取り入れ、より具体的、実践的に学べる授業を実施しました。

今後も事務所の所在地である台東区とともに地元根差した活動も広げていきたいと思ひます。



## 河川基金助成授業 防災出前授業「空の教室」

防災に関する出前授業「空の教室～空のメッセージをきいて、自然災害から身を守ろう～」(公益財団法人河川財団 河川基金 助成)を、2017年は小学校で14回の授業を実施しました。

1時限目は「突然の大雨から身を守ろう」大雨、雷や竜巻の時どうやって避難すればいいのかなど実験とともに学びます。

2時限目は「防災ワークショップ」。数人の班ごとに家族になって「自分の家はどんな危険があるのかな?」「どこに避難すればよいのかな?」など話し合ってもらいました。

この授業を通じて、天気や災害、地域の防災などについて関心を持ち、自分の身を守るようにしてもらいたひです。

## イベントの開催

2017年も全国各地で子ども向けの天気や環境、防災に関するイベントを実施しました。

イベントでは、テレビやラジオの気象キャスターが実験やゲーム、クイズを取り入れながら、ステージを盛り上げます。雲や雨、竜巻など天気の実験のほか、気象キャスター体験など、子ども達が実際に体験して楽しめるしかけもたくさんあります。

また、東日本大震災以降継続している被災地ボランティアイベントは宮城県山元町で実施しました。気象キャスターネットワークでは、今後も被災地でのボランティア活動を続けていきたいと思っております。

### 2017年 イベント 実施例

地球温暖化防止コミュニケーターによる親子向けイベント（名古屋、東京、札幌、大阪、広島）

被災地支援イベント「お天気防災教室～自然災害から身を守るには？～」(宮城県山元町)

ダイキンショールーム フーハ東京「お天気・環境実験教室」

国土交通省「お天気キャスターと楽しく学ぼう！わくわくお天気教室」  
(高知県四万十市、新潟県燕市、秋田県横手市)

水資源機構 水の週間イベント 親子で学ぶ防災教室 自然災害から身を守ろう（東京）

なごや環境大学  
「お天気キャスターと地球温暖化を学ぼう！～影響は天気に、暑さに、南極に？～」

品川区環境情報活動センター 子ども環境学習講座

国土交通省関東地方整備局「気象キャスターと学ぶ防災教室」

### ■2017年イベント実施実績 39回

8月26日、9月20日、10月14日

#### 国土交通省関東地方整備局「気象キャスターと学ぶ防災教室」

「気象キャスターと学ぶ防災教室」(国土交通省関東地方整備局主催)を、8月26日に千葉県香取市、9月20日に埼玉県川島町、10月14日に埼玉県上尾市で実施しました。



今回の講座の大きな特徴は、気象キャスターと河川事務所の方が協働で講座を行うことでした。香取市では、齊田季実治さんが霞ヶ浦河川事務所・利根川下流河川事務所の方と講演を行い、地域の洪水リスクや洪水の際の防災情報などについて理解を深めて頂きました。川島町の菊池真以さんと荒川上流河川事務所の方との講座は、廃校になる小学校の記念授業として地域の皆さんにも参加いただき、思い出に残る講座となりました。上尾市の講座では、寺川奈津美さんと荒川上流河川事務所の方が実験や工作を交えて親子の参加者に防災について学んでい

ただきました。

今回の講座をモデルケースとして、今後も河川防災の専門家の方と気象キャスターの協働の取り組みを継続していければと思います。



#### 8月5・6日 幕張メッセ国際展示場8ホール「そら博 SORA EXPO 2017」

「そら博 SORA EXPO2017」が8月5日・6日の2日間にわたって千葉県の幕張メッセ国際展示場8ホールで行われました。夏休み恒例となりつつある「そら博」は、気象キャスターネットワークの会員も参加できるイベントです。今回駆けつけ下さったメンバーと記念撮影。



ウェザーニューズからの依頼を受けて気象キャスターネットワークも出店していますが、40以上あるワークショップの中

でも気象キャスターネットワークの「雲図鑑」づくりはとても人気が高いのです。整理券をもらって、時間ごと子供たちがやることができます。一回およそ30～40名が参加。スタッフが席に誘導し、作り方を説明。雲のお話をしたり、お天気のお話をしたり、会話も弾みますが、集中して黙々と作業を進める人も多く、自分なりの雲図鑑が次々と出来上がっていきました。



兄弟・姉妹で並んで「雲図鑑」を作ってくれたり、3歳ぐらいのお子さんもお母さんと一緒に作ってくれました。「夏休みの自由研究にする！」と張り切って作っていた子や「帰りにどの雲がみられるかな？」と外に出るのを楽しんでいる子もいました。



他のブースの実験やワークショップも興味深く、有意義な2日間でした。

11月11日 宮城県山元町  
「お天気防災教室～自然災害から身を守るには!?～」

東日本大震災発生後から毎年行っているWCN被災地支援イベント。今回は宮城県山元町で、10月1日オープンの山元町防災拠点・山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール」で開催されました。当日はイベントに加え、会場となった施設の見学・被災地見学と充実のスケジュールでした。



「つばめの杜ひだまりホール」は災害時に避難所として活用する場合、約750名の避難生活が営める避難室や備蓄倉庫も備えられています。普段は交流センターとして活用され、災害時にもなじみや

すいよう随所に工夫がなされています。イベントには、親子連れが参加。前半に雲や竜巻づくり実験、お天気クイズ、後半は工作など盛りだくさん。



空の探検家・武田康男さんが、南極で実際に使われている高機能の防寒ウェアに身を包み登場すると、会場からは歓声が上がりました。

イベント後の被災地見学では、震災当時に山下中学校の校長をされていた渡辺修次さんより、震災遺構に予定されている旧中浜小学校の視察と津波発生時

のお話を伺い、最後にセンターの岩佐勝センター長から、当時の石巻の様子、生まれ育った山元町への思いを聞きました。



当日はちょうど東日本大震災から6年8か月、80回目の月命日。参加メンバーは「実際に足を運んでみなければ分からない」からこそ、今回歩いて感じたことを大切にこれからの放送や講演活動などで伝えていきたいと話していました。

(鈴木智恵さん・東北地区)

6月3・4日 東京・代々木公園  
「エコライフ・フェア2017」

6月3日(土)4日(日)に東京都渋谷区代々木公園にて環境省主催の「エコライフフェア2017」に出展しました。



毎年6月の環境月間に行われる環境啓発イベントで、今年のテーマは「パリ協定発効！キミの「賢い選択」が地

球の未来を切り拓く！！」です。企業や団体、音楽ライブや講演など行われ、1日目はメインステージで藤森代表の「みんなのクールチョイス」というステージも開催されました。



気象キャスターネットワークのブースでは「未来の天気予報にチャレンジ！」を

テーマに、地球温暖化が進行してしまった未来の地球をバックに記念撮影をし、その写真をプレゼントしました。子どもだけでなく大人も、ほぼ全ての方がクロマキー初体験で「楽しい！」や「想像以上に難しい！」との感想があり、2日間で約150名の方でにぎわいました。



8月19日 なごや環境大学親子講座  
お天気キャスター地球温暖化を学ぼう！～影響は天気、暑さに、南極に？～

2017年8月19日に、なごや環境大学の夏休み親子講座「お天気キャスターと地球温暖化を学ぼう！～影響は天気、暑さに、南極に？～」を名古屋市科学館にて開催しました。およそ40名の親子が参加し、お天気に関する授業を受講しました。



1時間目の講師は、メ〜テレの山田修作さん、三重テレビの多森成子さん、第56・58次南極観測隊夏隊員の小塩哲朗さん。

地球温暖化とその影響について、クイズを交えながらのお話で、子供たちはもちろん親御さんにも楽しんでもらいました。



2時間目は、東海テレビの吉田ジョージさん、CBCの桜沢信司さんと沢朋宏さん、NHKラジオの石垣真帆さん、中京テレビの松下さん、名古屋大学の杉山節子さんも加わり、2班に分かれて、名古屋市科学館の極寒ラボ、竜巻ラボ、放電ラボをまわりました。

また、授業の後は、イベントホールにて

気象キャスターと小塩さんと、「天気と南極のトークショー～お天気あるある南極はない～」を行いました。「夏休みは11月」、「稲光をみると数を数える」など、気象キャスターあるあるがテーマのお話でした。こちらにも多くのお客さんに集まってくれました。

最後に東京からお手伝いとして駆け付けた藤森代表も加え集合写真を撮影しました。



盛りだくさんの夏休み親子講座となりました。(松下有菜さん・東海地区)

## 講座・研修会・見学会

気象キャスターネットワークでは、会員の方が気象・防災・環境に関する最新の情報・知識を学ぶことができる講座・研修会・見学会を実施しています。今年度は南岸低気圧による大雪や2016年の台風10号についての講座を実施しました。また、地方ごとに独自に勉強会や見学会も実施しています。

1月 7日	南岸低気圧による大雪の研究 雲研究者・気象庁気象研究所 研究官 荒木健太郎氏
2月4日	4K映像による美しい空 ～山・平地・飛行機にて、撮影方法も～ 空の探検家・武田康男氏
3月5日	冬季の矢木沢ダム見学会
4月9日	2016年台風10号岩手・十勝豪雨と糸魚川大火 駒澤大学/神奈川大学 非常勤講師 平井史生氏
4月15日 7月15日	東海地区勉強会（名古屋・岐阜）
4月22日	中国地方整備局 勉強会（広島）
6月24日	日吉ダム見学会（大阪）
7月2日	浦山ダム見学会
9月2日	ペンギンから見た南極の環境 国立極地研究所 生物圏研究グループ 准教授 高橋晃周氏
9月16日	岩手県岩泉町 台風10号被災地視察（岩手）
10月22日	東北地方整備局と川の防災についての勉強会（仙台）

6月24日  
日吉ダム 見学会

6月24日、水資源機構のご協力で、日吉ダムの見学会を行いました。日吉ダムは、昭和35年の京都水害をうけ、平成10年に完成。年間で60万人が訪れる観光ダムでもあります。また、コンクリートのダムの中に空洞がありそこで学習できるようにもなっています。



勉強会は、そもそもダムとは？から始まり、ダムの役割を勉強しました。

平成25年台風18号（全国初特別警報が出た事例）の際に、貯水率が370%までいき、洪水時最高水位をいう限界基準を87センチオーバーするまで水をためました。その後、放水するも、当時のマスコミにダムの放流が水害を招いたのではと誤報を流されました。実際は、以下です。

- ・ダムが洪水時最高水位を超えても3時間粘ったおかげで、水害を軽減できた
- ・ダムが流木を食い止め被害を軽減
- ・浸水や洪水の原因は、

”広域で”記録的な大雨（400超／24h）（100年に1度レベル）が降ったことによる。嵐山の流量の95%は、ダム以外の所から。ダムの放水による影響は5%。…とのことでした。



今回、キャスターとしてダムの役割や正しい知識を得て大変有意義な勉強会となりました。（蓬萊大介さん・関西地区）

9月16日  
岩手県岩泉町 台風10号被災地視察

9月16日、2016年台風10号で甚大な被害のあった岩手県岩泉町で被災地の視察を行い、気象キャスターネットワークからは、東京や仙台などから16人の会員が参加しました。盛岡駅から、貸し切りバスで岩泉へ。小本川を上流から下流に移動しながら被災地を回りました。



門地区では流された橋や水浸かった家屋が今も残っています。妻綿（ほろわた）地区は大量の流木で氾濫の被害が拡大。現在は川の屈折した部分を利用して「流木補足工」を作り、流木の堆積を止める計画があります。

下流の乙茂（おとも）地区。堤防が決壊し、

9人の犠牲者が出た高齢者施設の跡地にも足を運びました。今後は川床を掘り下げ、堤防を築く予定だそうです。



最後に龍泉洞を急ぎ足で見学しました。今後、気象や防災を伝えていく上でも貴重な経験となりました。

（大隅智子さん・東北地区）

4月15日、7月15日  
東海地区勉強会(1)(2)

東海地区では2回の勉強会を実施しました。



4月15日（土）午後、正会員・一般会員が

集まり、「地球温暖化の現状と取組み」について、2月の総会の講演資料を使って復習しました。当初、2時間の予定でしたが、参加者からのたくさんの質問に講師が丁寧に回答して下さり、気がつけば4時間にわたる充実した勉強会になりました。

7月15日（土）午後、岐阜地方気象台で勉強会を行いました。予報官による専門天気図のレクチャーは丁寧かつ的確でした。参加者の興味を引いたのは、気象台

職員の手作りの装置による「大気圧チャンバー」体験！密閉した空間の空気を掃除機で抜いて気圧を低くし、無意識のうちに感じている大気圧を見える化します。代わる代わる体験して盛り上がりました。



## 9月2日 東京・国立極地研究所 「ペンギンから見た南極の環境」

東京都立川市にある国立極地研究所で、「ペンギンから見た南極の環境」と題して、国立極地研究所生物圏研究グループ准教授 高橋晃周さんの講義が行われました。鳥類を愛する高橋准教授から、南極のペンギンたちの現状やその研究、南極の氷の状態などのお話でした。



現状では、ペンギンの数は減っているわけではい。増えている種類もある。南極の氷も場所により溶けているところもあれば、多くなっているところもある。地球温暖化の影響は南極において今は眠れる獅子の状態。この先がどうなるかはわからない怖さがあるとのことでした。海に勢いよく落ちる南極の氷の映像をよく目にしますが、現状を見て研究した方のお話など、情報は多面的にとらえることが必要だと感じました。

講義の後、南極北極科学館見学などが行われ参加者の交流も深まりました。

(川崎亜有子さん・関東地区)

## 2月4日 東京台東区 4K映像による美しい空

台東区生涯学習センターミレニアムホールで、空の探検家・武田康男さんの講座を開催しました。武田さん自身が4Kカメラで撮影したとても貴重な映像を見せていただき、自然が作り出す美しい色彩に会場の参加者は魅了されていました。映像の現象の説明もあり、実り多い時間となりました。



## 講演・セミナーなど

官公庁や自治体、企業、団体からの依頼をいただき、一般市民や企業社員向けなどの講演やセミナーを全国各地で実施しました。気象キャスターや気象予報士が、気象災害から身を守るための様々な気象情報の活用方法や、天気予報の見方など最新の映像や事例を交え、わかりやすくお話しています。



気象健康セミナー(大塚製薬株式会社協賛)

### 2017年 講演・セミナーなど 実施例

気象健康セミナー (大塚製薬株式会社協賛、2017年24回実施)

お天気キャスターと学ぼう マイ・タイムライン(2017年3回実施)

環境省 地球温暖化防止コミュニケーター 養成セミナー(2017年26回実施)

気象キャスターから見た地球温暖化

天気予報の見方と気象災害への備え

水災害からいのちを守るために

異常気象と地球温暖化

天気の達人から見た、異常気象と気象災害への備え

目からウロコの天気予報(知っているようで知らない天気予報の中身)

2017年の熱中症対策

気象・環境などに関する原稿執筆、インタビュー

■2017年講演など実施実績 183回

## 4月～11月 大塚製薬株式会社協賛 「気象健康セミナー」

大塚製薬株式会社と協働の健康気象セミナーを、4月から7月にかけては主に熱中症対策について、北は福島県いわき市から西は佐賀県佐賀市まで全国23か所で開催しました。11月には乾燥対策をテーマとしたセミナーを神奈川県平塚市で開催しました。

また、2017年は、「動画で紹介 気象キャスターと学ぼう! 熱中症」のホームページを開設し、建築や工場等の安全管理担当者向けに動画配信による情報提供を行いました。



## 9月3日、9月9日、12月10日 「お天気キャスターと学ぼう マイ・タイムライン」

「マイ・タイムライン」とは、住民一人ひとりが洪水の際の避難方法を検討する取り組みです。

9月3日には宇都宮市で天達武史さんが、9月9日には茨城県筑西市で関口奈美さんが講師を担当し、水害のリスクを知り家族構成や生活環境にあった「マイ・タイ

ムライン」を作成するワークショップを実施しました。

また12月10日には茨城県常総市の鬼怒川の堤防で行われた「常総ペアウォーク」というイベントで、菊池真以さんが「マイ・タイムライン」を作成するワークショップの講師を担当しました。



